

編 集 後 記

光陰矢の如し。2013年6月1日より日本神経学会編集委員会第10期委員長として第9期委員長の故中野今治先生から業務を引き継ぎ、4年の任期が終了しようとしています。これを機会に編集委員会のこの4年間を振り返ってみたいと思います。編集委員会の主たる業務は学会機関誌「臨床神経学」の編集と発刊です。機関誌「臨床神経学」の発行は日本神経学会の主たる事業の一つであります。しかし、これまで長期にわたり学会運営においてその印刷費と発送費などの出版にかかる経費が増大し、財務上の懸案にもなっておりました。この解決策として機関誌の完全電子ジャーナル化が以前より検討されてきましたが、印刷体の併行存続の是非などの課題山積で、なかなか実現されずにおりました。しかし、遂に2015年1月発行の55巻1号から、それを実現することができました。これにつきましては、当時の代表理事水澤英洋先生と理事会のご理解のみならず、読者である一般会員の皆さまの大きな支持とご協力の賜物と考えております。実際、臨床神経学刊行費は、2013年度決算では一般会計事業費におけるその26%を占めていましたが、2015年度には6%にまで著減しました。

電子化のメリットは、学会財政への貢献のみではありません。電子化により検索機能が優れたものとなり「臨床神経学」の活用法も数段進歩したものになるというメリットが生まれました。さらに、学会員限定という枠を排除して、新たなオープンアクセスジャーナルとしましたので、従前

以上にアクセス数が増え、本誌の論文が多くの方々に読まれることになり、本誌掲載論文が被引用論文として有利な状況になりました。電子化出発当時には、印刷刷り体がなくなってしまったことに一抹の哀愁を禁じえませんでした。時代の大きな流れとニーズに即応した結果であったということがいえるでしょう。投稿数は2013年度以降、残念ながら著しい増加はみられておりませんが、オンラインジャーナルアクセス数は、2013年度が1,069,244件であったのが年々増加し、2016年度には2,541,056件に達しています。さらに、新たに導入したシステムとしては、採択論文の電子版のWeb上での早期公開が実現したことが挙げられます。早期公開システムによりPubMedおよびMedlineへの論文情報の掲載も採択後きわめて短時間で実現しております。「臨床神経学」Rinsho Sinkeigaku (Clinical Neurology: Clin Neurol) は、さらに国際的な一流誌に近づいたといえるのではないのでしょうか。

しかし、今後の課題も残されていといわざるを得ません。投稿数の伸び悩みも大きな課題ですが、引用されることの多い「総説」の投稿数が少ないことも今後の課題です。是非、先生方のご専門の領域の「総説」を積極的にご投稿いただきたいと思います。「臨床神経学」がさらに充実成長し、今後もわが国の神経学の発展の礎となり続けるべく、編集委員会の一層の努力を期待します。

(鈴木 則宏)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 鈴木 則宏 編集副委員長 河村 満
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡
 瀧山 嘉久 坪井 義夫 西野 一三 野村 恭一 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 園生 雅弘 高尾 昌樹

「臨床神経学」	第57巻 第5号	平成29年5月1日発行	
編 集 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発 行 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		高 橋 良 輔
印 刷 所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>